

弊社が提供するリサイクル業務に関するトピックス・レポートです。今回は、岐阜県不破郡垂井町で展開されている「リサイクル体験広場」についてご紹介させていただきます。

■岐阜県不破郡垂井町「リサイクル体験広場」

詳細な分別で、リサイクル率UPをめざす。

PTA や子ども会などによる資源回収は、昔から多くの地域で行われてきたリサイクル活動です。取材させていただいた岐阜県不破郡垂井町においても、一定の成果を上げてきましたが、少子化傾向により資源ゴミの回収量は減少傾向に。また、町全体のリサイクル率も低迷している状況にありました。

そうしたなか、ごみ問題に取り組む団体や、各地区廃棄物減量等推進員の有志の皆さんと町が協働してスタートさせたのが、「リサイクル体験広場」という取り組み。月に1度、家庭から出る資源ゴミを町の文化会館駐車場に持ち込んでもらうもので、資源回収でカバーできない部分をフォローする役目を担っています。

やればやるほど、奥が深い。

この取り組みが画期的なのは、受け入れ品目の多様さです。資源回収では取り扱わないものまで、直接持ち込むことで取扱い可能としています。

「当初は甘く考えていた」というのは、同町役場・環境衛生係長長の片岡さん。広範なゴミを資源化するには、詳細な分別が不可欠であることがわかり、勉強会に多くの時間を費やすことに。なかでもプラスチックは多種多様で、それらを見分けるのは容易なことではありません。例えば、食品トレイなどの軟らかいものと、ポリ容器のように硬いものでは、別物になるし、ペットボトルもキャップと本体では素材として別々。それらを分別できてはじめてリサイクルが適うわけで、一般の方に理解していただくにはどうすればいいのか、何度も検討を重ねました。その結果、受け入れ可能となったのが、各種プラスチック、紙、布、廃油、割り箸、陶磁器、金属、ビン類などの計27品目。燃えるゴミ・燃えないゴミとして出されていたものまで、幅広い資源循環が実現できました。

一方、町民の関心の高さに達成感を感じながら、「わかりやすく告知し、もっと広めたい」と意気込むのは、同係の高木さん。ここに足を運び、係員や案内看板に従いながら分別するだけで、環境やリサイクルへの関心が高まる、そんな場所となることをめざしています。



町施設の駐車場が、「リサイクル体験広場」に変身。みんなで作り上げた手づくりの活動です。



PRコーナーでは、バケツによる生ゴミ処理方法をご案内しました。



ビンやプラスチック容器などは、中身をきれいに洗って出すのが基本です。

編集後記

弊社では、プラスチックなどの分別方法についてプロのノウハウを提供させていただきました。「リサイクル体験広場」では、「収集段階でしっかりと分別する」という資源リサイクルの基本が具現化されています。小さなコストで活動できることも、重要なポイント。今後、地域における資源回収では、こうしたやり方が増えていくものと考えています。

カンサイ株式会社 ISO14001：2004 認証取得

●プラスチックなどの再生資源買取り・リサイクル・販売

岐阜県揖斐郡大野町の広大な敷地（11,001平方メートル）に、マテリアルリサイクルセンターを設置。各種工場などのお客様から受入れた原料（循環資源）を破碎・粉碎・圧縮梱包・成形しています。

